

クローバー通信

女性医師へのメッセージ

眼科学 妹尾 正

眼科学教室の妹尾です。「眼科」というと、ずっと以前から女性医師が多い科という印象があります。当医局でも研究生を含め総勢 68 人、OB(OG?) を加えると 107 人にも達し、入局当時は先輩として一緒にお仕事をしていた女性の先輩が 2 人だけでしたが、現在では 107 人のうち女性医師は 42 人でおおよそ 40%になります。元気で男子顔負けに仕事をする者もいれば、出産育児に追われ泣く泣く思うような仕事が出来ない人もいます。ただ、以前から見ると随分と女性医師の労働環境は改善されつつあるのではないかと感じております。たとえば、この女性医師支援センター「クローバー」の活動や、男性も含めた育児休暇、女性医師枠といった労働環境などは以前には無かったものです。ただ、これらの企業努力をもってしても女性の社会進出は、よほどの資産家でなければ困難な気がします。

つい先日、初期研修医向けに眼科の魅力を少しでも理解してもらおうと小セミナーを学内で行いました。女性医師支援枠で働く医局員が自分の日々の生活をプレゼンしているのをみて、ふとやはり眼科医の家内のことを思い出しました。医局員の彼女と同様に、朝暗いうちから起きて子供らの弁当を作りつつ朝食と保育園の準備をして、合間に掃除、仕事から帰ると夕食の準備、全員寝てから洗濯をしていたように思います。もう少し大きくなれば楽になると彼女は話していましたが・・・、どうでしょうか？その後も私の家内は、PTA だ、父母会だと、日々忙しく、お互いの両親まで総動員しながら働いているように思います。

私は単身赴任状態で炊事、洗濯、掃除(?)をひとりで何とかやっていますが、週末実家に帰ると何もせず幸せな一日を送っておりました。一念発起して、週末ぐらいは三食作りましょと、家内や子供に宣言して実践してみました。重い買い物袋を提げ帰宅し、準備をして食卓に並べたころには既に家内しかおらず、子供らは待ちきれずにカップラーメンを食べて自室に戻っていました。何度か食事を用意しているときに、家内から「一緒に外食のほうがいいよ。」と言われました。理由はこうでした。買い物に行くと食材だけでなく不思議な調理器具や家電製品、2つも3つも同じような道具を揃え、キッチンが狭くなるし、かえって家計はマイナスだということでした。

Conclusion : 女性と男性との間には身体的にも精神的にも異なる面があり(我が家だけかもしれませんが)、サポートしているつもりでも相手にとって心から有り難いこととは限らない。したがって相互理解の中から生まれる支援を行ってゆく必要がある。「こんなに女医さんを優遇してやっているのに」という発想からは、有能な女性の社会進出も、少子化対策も先行きは暗い。

センターからのお知らせ

第9回クローバー交流会を下記の日程で開催いたします。詳細につきましては後日掲示及び回覧にてお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。

平成 26 年 2 月 26 日(水) 18:00~ 女性医師支援センタークローバーにて

問い合わせ先

女性医師支援センター(内線3486)

✉ E-mail clover@dokkyomed.ac.jp